

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370105250		
法人名	株式会社ファミリーズ		
事業所名	グループホーム パラディソ神宮寺 1F		
所在地	岡山県岡山市北区北方1-14-3		
自己評価作成日	平成25年1月17日	評価結果市町村受理日	

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者一人一人の特徴を大事にして、寄り添うケアを提供し笑顔で安心した生活が送れるように努めています。「共に生活する」という視点で、利用者自身の存在感や役割・その人らしい生活を送って頂けるようにしています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kajokensaku.jp/33/index.php?action=kouhou_detail_2013_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3370105250-00&amp;PrefCd=33&amp;VersionCd=022">http://www.kajokensaku.jp/33/index.php?action=kouhou_detail_2013_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3370105250-00&amp;PrefCd=33&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ハートバード		
所在地	岡山県倉敷市阿知1-7-2-803 倉敷市くらしきベンチャーオフィス7号室		
訪問調査日	平成25年2月26日		

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

リビングで目をつむって利用者と職員のやり取りに耳を澄ますと、堅苦しくなく、それでいて思いやり溢れる言葉かけに普通の家にいるような感じがする。名札や制服等の施設っぽさを排し、日々のコミュニケーションから利用者に職員を覚えてもらい、逆に職員は、利用者が自覚し易く、家族も了解したなら「お父さん」と呼ぶなど、家族と暮らしているような感覚を醸している。  
建物は有名な建築家の設計により新築したもので、リビングが広く木が多用された温かな雰囲気での造りである。各居室は扉や内装がそれぞれ異なり、利用者が自分の部屋という意識をしっかりと持てる。また新設されたウッドデッキで外気に触れたり、置かれた鉢植えから季節を感じ取ることもできる。デッキに祀られた水神様を毎日拝む利用者もいたりする中、今日は皆でこれをしようというスケジュールを決めることなく、各自が思い思いにゆったりと時を過ごしていた。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらい 3. 職員の1/3くらい 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらい 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	月に一度の職員会議では具体的な日々のケアや理念について、職員全体で話し合い意見の統一を図っている。	家庭的で利用者の立場に立ったサービスを提供し、各人の能力に応じ、できる限り自立した生活が送れる支援を理念としている。ただ、それを事務所に掲示して唱和する等はせず、ケアを通じて理念の中身を利用者、家族に感じてもらえる様に努力している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的に散歩や買物などに出掛け、地域の方々との挨拶を交わしたり話をしている。町内会掃除や祭り、幼稚園との交流を図っている。	地域の祭りに出向いたり、近所の幼稚園の七夕会に招待されるなど地域との連携を強めつつある。そうした繋がりから、だんじりの経路に加えてもらえたり、地域のごみ集積所へのゴミ出しが実施できている。事業所の催しにも近所から多くの来訪者が顔を見せる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学校の『ふれあい講座』を通じて高齢者の人の理解や支援方法を伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町内会長など地域の方や利用者の家族に参加して頂き意見など日々のケアに活かせるようにしている。	運営推進会議の参加者は町内会長や民生委員、家族、法人代表、事業所代表等で構成されている。平日は家族が参加できないので、家族を重視して敢えて土日の開催にしている。会議では事業所の状況報告や参加者同士の意見や情報の交換がなされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	担当者と日頃の実情やケアの内容など伝えて関係を築いている。	行政からは運営に関する問い合わせがあった時、丁寧に回答し、理解を得られた。逆にこういうサービスを利用したいと質問や相談に出向くと快く受け入れてもらっている。スプリングラーやウッドデッキは行政の協力を得て設置できた。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	一人一人のその日の状態や気分をきちんと把握し、ケアに繋げていくことで安全を守り、施錠等身体拘束をしないケアに努めている。	拘束や虐待の実例や、それがどういう時に発生するか、言葉の拘束とはどのようなことか等を会議の議題にしている。「ちょっと待って」等の言葉も使わないように注意しているが、利用者の意志を抑制する言葉がけがあれば、職員同士で注意し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議で虐待について話し合い、事例など知ることによって日々のケアを振り返り防止に努めている。		

パラディーン神宮寺

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修等は必要時受けるようにしている。成年後見制度について学ぶ機会はない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所日に出来るだけ複数の家族と出来るだけ複数の職員で話す時間を設け、不安や希望なども聞き取っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族と個別に話し合う機会を設け、出された意見・要望等は職員間で共有し、日々のケアに反映させている。	家族等から来た意見や問い合わせが問題であると認識した際には、実情を調査し、改善策を立て、他の職員にも周知をして再発防止に努めている。面会の際に家族が意見や要望を言いやすい雰囲気作りをし、集めた情報から改善につなげている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者も現場職員として働いているため、日常的に職員の意見や提案を聞いている。必要に応じて個別の面談も行い、一人一人の声が聞き取れるよう努めている。	上司は職員が意見を言い易い雰囲気を作り、日常的に意見を聞き出している。行事企画やトラブルには基本的に職員が意見を出し、対処を検討している。担当する利用者に変化があった際に自分の意見が会議の議題になったと話ず職員もいた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年数回の面接を行い、職員が向上心を持って働けるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の職員会議で外部研修の情報も共有している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	機会があれば、積極的に取り組みたいと思っている。		

パラディーソ神宮寺

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の思いや不安を受け止めると共に、家族の意見や情報を取り入れ、安心に過ごせるような関係を築いている。入所前には施設見学にきてもらっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所数日は、様子報告の電話をしたり積極的に面会にも来てもらうことを勧めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族の思いを大切に、希望に添える支援を相談・提供している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者は、人生の先輩であるという考えを職員が共有し、日常的に教えてもらう場面が多い。共に支え合える関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人にとって、家族が一番の支援者であり、家族の役割を職員が奪い取ることはない様、協力できることは声をかけ共に本人を支えていける様になっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの美容室に行かれたり、毎月の命日のお墓参りに行かれたり、一人一人の生活習慣を尊重している。	来訪者に対して再来を促す言葉をかけるなどして、関係の維持が継続するように心掛けている。利用者の多くは、事業所周辺の土地勘があるので、近くの公園やスーパーへ等の買い物などによく出かけている。美容院等には行きたい時に行ってもらっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性についての情報を常に職員間で共有している。		

パラディーソ神宮寺

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も必要に応じて家族のフォローや相談に応じている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	担当制を取り入れ、日々の関わりの中で傾聴を心掛け希望・意向の把握に努めている。	利用者が自己決定できるような問いかけで意思を確認し、回答に応じている。本人の意思確認が難しい際には生活歴や家族からの情報で推測している。表情が出る人は、自身が望むことには笑みを浮かべるので、それで意思を確認している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人と家族との入居前面談時や他機関からの情報提供を元に、日々の関わりの中で言葉や表情などから情報を得るように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の生活リズムや能力を見極め必要時に必要なだけの支援をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月現状表へ変化や日常の出来事を記入し、家族とも情報共有している。支援方法など職員間で意見交換しケアプランへ繋げている。	現状チェック表に利用者の表情や様子等を記録して、介護計画作成時の参考にしてしている。しかし、記録者や作成日等が記入もれがあったり、痛み等の日常の変化がモニタリングに反映されていない部分があったりした。	記録者の署名捺印、日時のもれや一部の鉛筆書きは記録の信憑性を落としてしまう。また「変化なし」が続き過ぎる部分もあった。内容や根拠が第三者にもわかるような記録となるよう、期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	朝夕2回の申し送りで情報共有している。記録も大事な事は色分けし線を引き、ひと目で分かりやすい様になっている。ケアの実践と結果も記入し、見直し次のケアに繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・家族の状況に応じて、通院等の送迎等必要な支援は柔軟に行っている。		

パラディーソ神宮寺

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に民生委員に参加してもらい地域に馴染める様協力してもらっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望を大切にし、馴染みのあるかかりつけ医の継続や、希望があれば紹介も行っている。	従来のかかりつけ医を継続している利用者は約半数いる。家族の受診付き添いを、本人との関わりの機会と捉え、基本的には家族に依頼しているが、送迎の過半数は事業所が行っている。日頃の様子を家族や医師に伝える一方、家族と受診した際はその情報を聞き取っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の小さな変化や気付きを見落とさない様職員間で情報を共有し、異常があれば、看護職員又は、主治医へ連絡し指示を仰ぎ対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医師や看護師と本人の状況について話す機会をもち、早期退院に努めている。病院へのお見舞いや必要に応じて食事介助も行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	職員会議など職員全体が集まる場で、本人・家族の思いを尊重しこれからのケアをどのようにするべきかを考えている。家族とはその都度、意志の確認をし後悔の残らない終末期を迎えられるよう取り組んでいる。	重度化した場合の指針を文書化している。契約時に家族から「最期まで見てくれるのか」と問われたら、「医療行為の必要がなく、家族が希望するなら」と説明している。終末期に近い利用者はリビングの近くで休んでもらい、寂しくないように配慮し、何かあったらすぐに対処できるようにしている。	契約時だけでなく、入居後一定期間経過後の、ある程度家族が落ち着いた頃合いで、改めて重度化した場合の説明を期待したい。そして、双方の思い違いによる、後々のトラブルを未然に防ぐ意味からも、同意書を受け取ることを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に行っていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回マニュアルを元に避難訓練を行っている。	避難訓練は昼間、夜間を想定して実施している。重度化した利用者もいるので、火を出さないよう、IH調理器やスイッチ式のタップ等の使用や、使わないコンセントへはゴムの蓋をするなどの工夫が施されている。消防署への通報装置は2階の事務所に設置されている。	職員は通報装置を認識していたが、操作方法の理解がやや甘かった。消防署への通報の手順も一元化されていないので、非常時に混乱しないような統一を期待したい。また、地震の際の家具の倒壊防止や備蓄食料の準備も期待したい。

パラディーソ神宮寺

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者は人生の大先輩という気持ちを常に持ち、誇りやプライバシーを損ねない対応をしている。	各居室内にトイレがあるので、介助時のプライバシーは確保し易く、トイレへの誘導等でも気になる言葉がけはなかった。全般的に、利用者が恥ずかしいと感じる対応がないよう、気を付けている。対応自体は家族的ではあるが、礼を失するような点は見られなかった。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人一人に合わせた声かけや傾聴を心掛け、自己決定ができるコミュニケーションを図るよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースを大切に、自由に過ごしてもらい、それに合わせた対応を心掛けている。希望があれば散歩や買物などに出掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服など本人の好みで選んでいる。自己決定の難しい人には反応を見て決めたり、家族からの情報を得たり、選択しやすい声かけを行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の食に対するニーズを把握し、一緒に買物へ出掛け商品を見てメニューをきめたり、一緒に食事の準備を行っている。	ランチョンマットが彩りと家庭的な温かさを添えている。利用者の体格や状態により、椅子の高さを食べやすいように調整している。食事介助を必要とする人がやや多く、職員は注意深く介助していた。献立は利用者の意向を取り入れ、食材を見て検討している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の食事量・水分量を把握している。状態に応じて、おかゆや刻み食、ミキサー食などに変更するなど臨機応変に対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人一人に合わせて行っている。必要に応じて、歯科の受診や往診を受けている。		

パラディーソ神宮寺

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意や便意の無い人やパットに出ている時でも必ずトイレ誘導を行い、排泄状況をこまめに把握し自立に向けた支援に繋げられる様努めている。	排泄時間や本人の表情から、各人の排泄パターンを知り、タイミングを見計らい、トイレで排泄できるように努めている。夜間は自分で起きれる人以外は、時間ごとにパッドを交換している。便秘への対策も数々講じており、効果が出ている人もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄パターンを把握し、便秘の方には牛乳やヨーグルトなどの提供、マッサージ、水分補給の重要性について職員間で話し合ったりしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	日曜日以外は入浴日としいつでも入浴できるようにしている。入浴介助に2人必要な方には必ず2人で対応している。	柚子湯や菖蒲湯にしたり、入浴剤を入れたり、歌を歌ったり、むくみのある人にマッサージ等をして、入浴を楽しんでもらっている。異性介助を嫌がる利用者へは、同性の職員が行う。入浴日は予め決めているが、体調や機嫌などにより、臨機応変に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中に活動を促し、夜はリラックスして布団に入れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋ファイルを活用し、薬の処方や用量の変更がある場合は詳細な記録をとり状態変化の観察に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人に合った楽しみや活躍の場を大切にし本人が生き生きと過ごせるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	自宅・買物・外食など出来る限り希望に沿った外出が出来る様に努めている。家族の協力が必要な時は、連絡を取り協力してもらっている。	「ちょっと外の空気を吸いに行こう」と希望者を募り、車で利用者が以前住んでいた家の近くなどを訪れたり、アイスクリームを食べに、少し離れた牧場に出かけたりしている。気候が良ければ、午前中に小グループで散歩に出かけている。	

パラディーソ神宮寺

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の所持については、家族ごとに様々な意向を持っているが、本人の安心や満足に向けて小額のお金を持っている方もいる。家族と相談しながら支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族と自由にいつでも連絡がとれるように携帯電話を持っている方もいる。家族へ電話などの要望があるときには随時対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた掲示物や植物で季節感を取り入れている。又、室温管理にも努めている。	毎日の清掃箇所以外は、職員が気づいた時にきれいにしている。新設のウッドデッキには草花の鉢が置かれ、季節の変化が楽しめる。リビングの隅にさりげなく置かれたソファは、利用者が、ひとりの時間を満喫したり、家族との団欒の場として重宝されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人一人のプライバシーを確保しつつ、共同スペースにはソファを置き一人で過ごしたり、気の合う方と過ごしたり、くつろげるスペースもある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具等の配置、本人の使い易さや馴染みのもてる環境整備を心掛けている。	一室ずつ個性の異なった居室である。扉も異なり、利用者が自分の部屋を意識し易いようになっている。各居室にトイレがあり、利便性が高い。家庭的な雰囲気を出せるよう、馴染みの品を自由に持ち込んでもらっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人の状態を把握しながら、安全に快適に過ごせる様、物の配置などに配慮している。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	3370105250		
法人名	株式会社ファミリーズ		
事業所名	グループホーム パラディーン神宮寺 2F		
所在地	岡山県岡山市北区北方1-14-3		
自己評価作成日	平成25年1月14日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaisokensaku.in/33/index.php?action=kouhvu_detail_2013_022_kani=true&amp;JivvosvoCd=3370105250-00&amp;PrefCd=33&amp;VersionCd=022">http://www.kaisokensaku.in/33/index.php?action=kouhvu_detail_2013_022_kani=true&amp;JivvosvoCd=3370105250-00&amp;PrefCd=33&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社ハートバード
所在地	岡山県倉敷市阿知1-7-2-803 倉敷市くらしきベンチャーオフィス7号室
訪問調査日	平成25年2月26日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

個人の特徴を大事にして寄り添うケアを提供し、笑顔で安心した生活が送れる様に努めています。『共に生活する』という視点で利用者自身の存在感や役割・その人らしい生活を送って頂ける様にしています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日常業務中や疑問点についての話し合いなどで当施設の有り方や方向性を一緒に考え共有し日々のケアに繋げている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事へ参加して社会交流をはかっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域にある学校や関係機関より実習生やボランティアなどの受け入れを積極的に行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	関係職員・家族・町内会の方などを交えて、日頃のサービス向上に向けて情報や意見交換を行っている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	担当者と日頃の実情やケアの内容など伝えて関係を築いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束による制限されたケアではなく、利用者の自由で伸び伸びした生活を主と考え実践に繋げている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	過去の事例を基に適切なケア・不適切なケアを見極めて、皆で再確認・意識統一している。		

パラディーン神宮寺

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修などは必要時受けるようにしている。成年後見人制度については学ぶ機会はない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前・当日などに時間をもち相互理解に努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や連絡があった際、密に情報共有して利用者・家族の意見を第一に考え反映している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング・会議等で意見交換している。日々の業務を通じアイデアなど職場の提案を実施している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年数回のフィードバック面接を行い職員が向上心を持って働けるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月会議を行い、外部研修の情報や施設内での勉強会を実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会などで交流のある方と意見交換し、それを会議等で情報共有しサービス向上に繋げている。		

パラディーン神宮寺

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の安心に繋がる様思いを傾聴し、家族の意見や情報取り入れながら信頼関係を築いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時に時間をとりゆっくり話を聞く様にしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時じっくり話を聞きニーズ把握・確認している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者・職員共に生活し互いに支え合える家族の様な関係を大事にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会・家族との外出を自由としている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	顔馴染みの方から家族・親族まで足を運びやすい環境を維持している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の性格や考えを理解し、皆が関わり合える関係作りに努めている。		

パラディーン神宮寺

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も必要に応じて家族のフォローや相談に応じている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	担当制を取り入れ日々の関わりの中で傾聴を心がけ希望・意向の把握に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面談や他関係機関からの情報提供により把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人一人の生活リズムを理解する様努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の様子などを毎月現状表に記入し家族と情報共有し家族の意見も取り入れた計画とモニタリングを行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録を用いて食事量・服薬・排泄・日々の暮らしの様子を記入し、ケアプランに生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・家族の意向を配慮し日々変化していくニーズへ対応している。		

パラディーン神宮寺

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	住み慣れた地域で安心・安楽な生活が送れる様支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望を大切にし、馴染みのあるかかりつけ医を継続したり受診時の付き添いもしている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の小さな変化や気づきを職員内で共有し、異常時は看護士に相談している。また必要があれば医師へ報告・相談・受診している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には医療機関へ情報提供し職員が見舞いをしながら関係作りをしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事前に家族と面談している。その情報を元に会議などで意向を確認・意識統一している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日々の業務でリスクマネジメントを行い実践に努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回マニュアルを基に避難訓練をしている。		

パラディーン神宮寺

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	意思を尊重して考えを否定しない・受容する声かけを心掛けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々に合ったコミュニケーションを心掛け・実施している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースを大事にし日々変化していくニーズを把握している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	面会・外出時や1日過ごして頂く服装の決定・お化粧品など提供している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食に対するニーズを把握し、一緒に買物に出掛け商品を見てメニューを決定したり調理・片付けしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量の記録を行い、必要な方へは水分量のチェックもし状態把握に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個人に合わせて行くと共に、訪問歯科の方が来て診てもらったりしている。		

パラディーン神宮寺

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意をさせない方には排泄パターンを把握しトイレでの排泄を基本として支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄のチェックを行ってリズムを把握し、運動や水分摂取・腹部マッサージを促すと共に牛乳・ヨーグルト・フルーツなども提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の希望としている入浴に少しでも近づける様、毎回要望を本人確認している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜のリズムを作り自然入眠となりやすい様に温度・照明に配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋ファイルを活用し変更など常時確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々のその人らしさを重視し意欲や向上心を持って頂ける様にしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的な買物やドライブ・花見・夏祭り・紅葉狩り・外食などの外出で、ご家族にも呼びかけ参加して頂ける様支援している。		

パラディーン神宮寺

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	欲しい物を自身のお金で購入してもらい、目的達成や楽しみを持てる様にしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	友人の手紙や電話または郵便局に行ったりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた掲示物や植物で季節感を取り入れている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	プライバシーを確保すると共に居室間の行き来が自由な為、気軽に訪室出来る様にしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	長年使い慣れたもの・愛着のある服等、本人の使用しやすい配置も考えながら親しみの持てる様に整備している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーや手摺の設置で安全に歩行出来る様工夫している。		